

大会テクニカルレポート

大会名	JA東京カップ 第27回東京都5年生サッカー大会中央大会		
日時	10月10日(土) 10月11日(日) 10月12日(月)	会場	府中朝日グラウンド・府中少年サッカー場

東京都少年サッカー連盟 委員長 高山 清
 技術指導部長 井上 雅志
 文責 技術指導部 池田 尚人

結果概要			
優勝	JACPA東京FC	3位	横河武蔵野FCジュニア
準優勝	府中新町FC	4位	パディSC

	試合数	得点数	1試合当たり得点数
今大会	66	246	3.7

講評 東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために

①観て判断する

ボールを保持した後に観て判断する事が出来ている選手は多いが、もらう前に観るという事が出来る選手は、まだ少ないと感じた。
 受け手につなぐという意識はあるが広い視野の中で判断してパスをつなぐといった事が出来ればチャンスも増えると感じた。
 受ける側もボール保持者だけでなく相手やスペースも見て動き出し、相手を引き離す、裏を取るといったようなオフでの駆け引きが出来ると、より良い状況でボールが受けられると感じた。これらの事が出来ているチームもありましたので日ごろの練習から習慣づける事が大切なことだと思います。

②判断を伴ったテクニックの発揮をする(ファーストタッチの質・プレーの選択)

もらう前に観るという事でファーストタッチの質、プレーの選択も増えると思う。
 上位の成績を取めたチームには観る事が習慣づけられている選手が多く、ゴールを奪う為の良い判断、それに伴うファーストタッチの質が良いように感じた。

③攻守に関わり続ける

特に決勝トーナメントに進んだチームには全員で攻め守る意識が高くみられた。守備面では相手に時間を与えず、また第1DFと第2DFのチャレンジカバー等も良くできていた。攻撃面でも積極的に相手に仕掛けていくドリブルや相手の裏に飛び出し、チャンスをつかんでいた。全体としてGKに関しては守備面でシュートを止める技術は進歩しており会場を沸かすようなセービングも見られたが、DFの裏をカバーするような場面は少なく、攻撃面でも数的優位を作る為にプレーヤーとしての役割が必要だと感じた。

④積極的にコミュニケーションできる

ウォーミングアップやゲームに入る前に声を出していてもゲーム中は限られた選手しか声が出ない。ベンチからの声だけでなくピッチの中でも選手同士で状況を伝える、変える、確認する、励ますといったような事が出来ると判断もプレーも良くなると思う。

⑤リスペクトの心をもてる

相手がいるからゲームが出来る。相手が全力を出してくれるから自分たちの技術も向上する。審判がいるからより安全な環境でプレーが出来る。日ごろから選手が理解していれば自然にありがとうと言えると思います。ボールが出た時も審判にマイボールをアピールする選手がいますが、フェアプレイの精神で「自分が出したなら相手ボール」と当たり前の自己申告が出来るといいと思います。

総評

上位に上がってくるチームは攻守に関わり続ける選手が多く、ボールを奪われても全員で奪い返し意識を持っていました。攻撃では積極的に仕掛けて行き、ゴールを狙う事が徹底されていました。勝ち進む為には、どこからでもゴールを狙える選手の育成が必要だと感じました。又、優勝したJACPA東京FCははじめ上位に来るチームは3ピリオドを通して選手の能力が高かったと感じました。11人制から8人制に変わりボールを持つ時間が増えても出場機会が減ってしまっはマイナスですので多くの子どもをピッチに立たせる意味でも3ピリオドを通して戦えるチーム作りが必要だと感じました。コーチからの指示もゲーム中には必要だと考えますが選手の判断を引き出すような声掛けによって気づかせ、結果良いプレーが出来るように導いていく事も大切だと感じます。